

# ぶらり駅前

荒川を隔てて東京に隣接する川口は、1962年に封切られた吉永小百合主演の名作映画「キユーポラのある街」の舞台だ。駅東口の8階建て再開発ビル「キユーポラ」7階にある映像情報メディアセンター「メディアセブン」を訪ねた。映像産業の集積に力を入れる川口市が、開館させたばかりだ。

係の人に案内してもらい、館内の施設を体験してみた。164インチのスクリーンで映画を楽しんだり、録音、編集スタジオで、オペレーターに教わりながら映像編集にも挑戦できる。

駅前で、いつも行列になっているのが名物の大判焼き「太郎焼き」。ひとつ100円で買いたいを、甘さ控えめの素朴な味わいを楽しみながら、本町大通りを南東へ向かうと、約10分で川口市立文化財センターに到着した。植木やミソ醸造など、近代地場産業の資料が展示されているが、やはり目玉は鋳物。特に目を引くのは、鋳物製品の小

## JR京浜東北線・川口駅 (埼玉県川口市)

売店を再現した一角だ。

大正時代から昭和40年代まで作られていたというだるまストープや鍋など、市内から集めた鋳物製品が並んでいる。市教委社会教育課の金子宏章さん(39)は「富士山型の川口鉄瓶など、今となつては貴重な鋳物製品もあります」と話す。

センター近くには、江戸時代、將軍一行が日光東照宮への参詣途中に立ち寄つた川口宿本陣跡がある。路地に足を踏み入れると、鉄を溶かす円筒型の炉「キユーポラ」の先が屋根から突き出た鋳物工場もわずかに残されていた。

駅へ戻る前に、映画のラストシーンに登場した川口陸橋に上り、吉永小百合になつた気分です、駅の方向を眺めてみた。高層マンションが立ち並ぶ風景に、キユーポラの鉄を溶かす明かりが夜空を赤く染めていた時代が、とても遠くに感じられた。(さいたま支局 丸房代)

メモ

文化財センターの開館時間は午前9時半～午後4時半。月曜祝日休館で、大人100円、小学生50円。メディアセブン

は午前10時～午後9時(土日は午前9時～午後6時)で、第3金曜日休館。録音スタジオは300円から利用できる。

